



お知らせコーナー



11月25日、**社内研修ツアー**で、下関と北九州の八幡へ。研修テーマは『明治日本の産業革命遺産』—なぜ世界遺産に登録されたのか—。(テーマが少し硬い・・・?)

壇ノ浦古戦場跡

源平の合戦場跡で、1185年源氏と平家の最後の戦いとなった壇ノ浦合戦の跡です。

二位尼に抱かれた安徳天皇は、わずか8歳にして壇ノ浦に入水しました。

公園の中には壇ノ浦の戦いで平家水軍を率いた平知盛が船の碇を担いだ銅像と平教経と渡り合った源義経が、舟から舟へと颯爽と飛び移った銅像が対峙する形で置かれており、ここが歴史的に有名だったことを物語っています。



赤間神宮



その安徳天皇を祀っているのが赤間神宮。関門海峡を臨み、白壁に朱塗の鮮やかな竜宮造りの水天門があります。

境内には、平家一門の墓(壇ノ浦の戦いで敗れた平家一門の合祀墓(供養塔))や耳なし芳一の木像を安置する芳一堂、貴重な資料を展示した宝物殿などもありました。宝物殿に展示されていた安徳天皇の像は年齢よりとても小さく感じました。

春帆楼

昼食は、明治14年頃に赤間神宮に隣接していた阿弥陀寺の跡地にできた「春帆楼」へ。



春帆楼のHPより

太閤秀吉の時代から引継がれてきた「河豚禁止令」の禁を解いた初代内閣総理大臣伊藤博文が屋号を「春帆楼」と命名し、みぐ料理公認第一号としても知られる老舗料理店! 明治28年(1895年)「日清講和条約」の締結の場としても有名です。

眼下の関門海峡を眺めながら、河豚づくしの料理を堪能した大満足なひとときでした。



八幡製鐵所

東京ドーム360個分という広大な敷地面積。24時間稼働の巨大な高炉で鉄鉱石から銑鉄をつくる場面や、作られたばかりの鉄を運ぶ鉄道が路上を走っている様子等を間近でみて1901年より続く製鐵の歴史を感じました。日本の鉄道レールの8割はこの製鐵所で造られているとの事。

